

JIMGAnews

第27号

ワシントンでのISO会議について

2015年2月、米国ワシントンで開催されたISO TC58（ガス容器に関する規格）SC-4（ガス容器の使用要件）会議に出席しました。開催された1週間は寒波に見舞われ、ボストンでは歴史的な積雪が連日ニュースで放送されており、ワシントンも氷点下となる寒さでした。

最初の2日間はMAE（Modal acoustic emission）による複合容器検査を担当するWG-15で、規格内容について討議されました。日本ではMAEはまだ容器検査には活用されていませんが、今後のために各国の意見交換の場に参加しました。

SC-4の全体会議では、関連文書の確認、投票方法の見直し、ISO規格になるまでの今までの手順である委員会原案（CD）→国際規格原案（DIS）→国際規格最終原案（FDIS）→国際規格（IS）について、作業の加速化のためにCD投票とFDIS投票は必ずしも実施する必要がなくなったことなどの報告が行われました。

最終日には容器の識別を担当しているWG-6で各国の容器メーカーのロゴの取り扱いについて討議され、容器メーカーの会社名、製造工場、ロゴを規格内に取り入れ、各国から提出された見直し案による修正を行い規格案が決定されました。日本の提案したRFタグの規格については、各国から提出されたコメントによる修正を行い3月に規格案の賛否を問う投票が行われることになりました。次回会議は南アフリカで2016年2月に開催される予定です。



会議の様子



TC58 SC4会議出席者

(技術・保安部会事務局：徳富栄一郎)

第36回国際整合化委員会(IHC)上海会議

2015年3月3～5日の日程で第36回IHC上海会議（AIGA主催）が開催され、JIMGAから永江専務理事を含め3名が参加しました。本会議は日本（JIMGA）、ヨーロッパ（EIGA）、アメリカ（CGA）にアジア（AIGA）を加えた産業ガス4協会が、保安技術上の重要な基準を共通化する「国際整合化活動」の推進を行うために発足しました。日本はJIGA設立時から参画しています。

今回は中国の上海で開催されたことから、中国の産業ガス協会CIGIA（China Industrial Gases Industry Association）からの参加もあり、活動内容が紹介されました。主な議案は、19の新規基準作成プロジェクト、および24の基準改訂プロジェクトの進捗確認（JIMGAリードの「セレン化水素の安全な取扱い」指針を含む）、並びにアセチレンと特殊材料ガスにおける危険源（ハザード）と基準文書記載内容などについての解析手法（ギャップ分析）の今後の対応検討でした。特殊材料ガスについては、JIMGAとAIGAと共同にて、進めることとなりました。またIOMA（International Oxygen Manufacturers Association）会員に対し、IHC活動の重要性を啓発するために、IOMA機関紙（Broadcaster）の記事とプロモーションビデオの紹介がありました。初回は、Air Liquide社のBarthélémy氏がリーダーを務めたIHC活動が紹介されます。最後に、今後のIHC会議は、第37回をCGA主催で2015年7月にアメリカのシアトルにて、第38回をJIMGA主催で2016年3月に東京にて開催することが承認されました。

最終日の3月5日には、各地域の医療ガスの法規制に関する情報交換を目的とした会議が開催されました。CGAから依頼のあったアンケート回答結果から、各国の法規制（有効期限の表示、封、設備の洗浄、ラベル、バッチ等）には、不合理な点があることが共通認識されました。これら法規制に対する共通の問題を議論した結果、医療ガスのGMP（医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準）の基本となっているPIC/S（医薬品査察協議会及び医薬品査察協同スキーム）が定めたAnnex6に対し、「現状レベルで遵守できる内容や遵守が難しいまたはできない内容」を各地域で整理し、産業ガス業界としての統一意見を取りまとめることとなりました。今回、本会議で決定した事項は2015年5月19日に開催されるIOMAのグローバル委員会会議で承認を受けることになっています。



第36回IHC上海会議出席委員

（国際部会事務局・仲山 一郎）

会員紹介 ー内村酸素株式会社ー

沿革

内村酸素株式会社は、1925年(大正14年)に熊本市紺屋町で創業し、今年で創業90周年を迎えます。これもひとえに業界の皆様や地域社会の皆様のご芳情のおかげと、改めて御礼申し上げます。

創業当時の屋号は内村酸素店。酸素ガスシリンダのほか乾物や干物の販売も行っておりました。偶然にも、地場の大手地方銀行と同じ年、同じ町内での創業で、今でも当銀行との取引口座番号は3桁。現存する企業としては相当に古い番号であり、弊社の歴史を感じることができます。

1951年(昭和26年)には、故内村チカ様が有限会社内村酸素商会を設立。1967年(昭和42年)には、当時ガスメーカーに勤務していた現会長今川利男が入社し、翌1968年(昭和43年)熊本市十禅寺町に九州で初めて酸素ガス充填工場を開設しました。当時、自社充填工場を持ったディーラーは全国でも少なく、今日の内村酸素の発展の基盤を築きました。

その後、窒素ガス充填設備、炭酸ガス充填設備を増設するかたわら、1972年(昭和47年)には2拠点目のガス充填工場を熊本県玉名郡長洲町に開設し、2拠点でのガスセンター体制を確立していきます。この頃より取り扱い商品を徐々に増やし、高圧ガス、溶接材料のほか電子工業用薬品、FA機器、機械工具と業態を拡大し、地域社会のさまざまなモノづくりに貢献できる業務体系を構築していきました。



嘉島事業所・総合ガスセンター外観



創業当時の様子

1999年(平成11年)には、更なる社業発展を期し、熊本市十禅寺町にありました熊本ガスセンターを熊本県上益城郡嘉島町に移設し、嘉島事業所・総合ガスセンターを開設しました。また、お客様への更なるサービスを目指し、2002年(平成14年)より、液化酸素タンクローリ、液化窒素タンクローリ、液化炭酸タンクローリ、LPGバルクローリの導入を進めていきました。

CSRへの取り組み

内村酸素の重要な経営方針のひとつに、地域社会への貢献があります。CSR(企業の社会的責任)を果たすために、私どもの取り扱い商品を地域社会のモノづくりをされるお客様へお届けしたり、危険物を取り扱う業務性格上、常に保安活動に注力することは当然ですが、私ども

が目指すものは更に、地域の社会福祉活動や、地域貢献に注力することでもあります。

1997年(平成9年)に内村チ力様の私財を投じて設立された、公益財団法人内村チ力育英財団。将来の国家社会・地域社会を支えていく優秀な人材への成長を祈り、学術優秀であり品行も正しく、また身体も強健でありながら、ただ経済的な理由のみで自己の才能を十分に伸ばすことができない学生へ、返済義務のない給付型の奨学金を支給し続けております。



当財団の活動の様子

当財団は、大学奨学生に月額3万円、高校奨学生に月額2万円を支給し、奨学生の累積総数は、今年度で大学奨学生245名、高校奨学生399名、合計644名となりました。

また熊本の地下水を守るため、南阿蘇村の水田耕作農家へ毎年精米の購入活動を行うことにより、南阿蘇村が推進する「地下水を守るん田」プロジェクトにも参画しています。

未来に向けて

地域社会で存在価値を皆様に認めていただく会社経営こそ、私ども内村酸素に課せられた使命であるとの強い認識を持ち、これからも弛まぬ努力が必要であると考えております。会社を健全な状態に保ち続けるため、今後も財務体質強化に努めていかなければなりません。

本年5月に創業90周年を記念する「ウチムラ90サンクスフェア」を開催し、創業100周年へ向けての基盤づくりをしたいと考えています。これからも業界、地域社会に貢献し、地域社会に必要とされる会社であり続けるよう頑張っまいますので、引き続き皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

(内村酸素株式会社 代表取締役社長・今川 敬志)

炭酸ガス技術WGの活動について

技術・保安部会傘下の炭酸ガス技術WGは、炭酸ガス関連会員18社にて構成され、代表8社にて、固有のテーマを中心に隔月1回の定例会ならびに年1回の全体会議を開催しています。また活動の特徴として、本WGの委員が技術・保安部会（容器技術WG、安全設計WG、保安対策WG、充てん技術WG）、環境・安全部会（環境保全WG、化学品安全WG）、国際部会（規制改革WG）等の他の部会の会議体にも参画し、情報の共有化を図っています。また、地域本部の炭酸ガス技術WG・Gの会議体にも積極的に出席するとともに、本部ならびに地域本部の意見交換も活発に進めています。

特に本WGの活動としては、「液化炭酸ガスのSDSの見直し」ならびに「液化炭酸ガス関連のテキスト改訂：①液化炭酸ガスCE設置事業所・ローリ運行事業所 関係基準 ②液化炭酸ガス取扱いテキスト③高圧ガス保安法の要点（液化炭酸ガス）④原料炭酸ガス製造フロー概説」を実施しています。

現地研修会について

本WGの関連会員会社ならびに関係者の協力のもと、2015年1月30日には「大阪ガス株式会社泉北製造所第1工場内リキッドガス」の液化炭酸ガス関連設備の見学、3月16日には「上毛天然瓦斯工業株式会社北関東事業所」の炭酸ガス充てん設備の見学を、代表8社委員にて実施しました。

本WGは、今後も「ガス関連全般の保安意識向上や環境への配慮」をテーマとし、「他の部会・WGの情報共有化」にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

炭酸ガス技術WG 現地研修会

大阪ガス株式会社泉北製造所第1工場内
リキッドガス
2015年1月30日(金)



株式会社リキッドガス/近畿炭酸株式会社
パンフレットより転載

上毛天然瓦斯工業株式会社
2015年3月16日(月)



上毛天然瓦斯工業株式会社
北関東事業所
HPより転載



訪問メンバー



訪問メンバー

(保安・技術部会 炭酸ガス技術WG事務局・山本 泰彦)

新事務局員の紹介

事務局長紹介



名 前：福本 健一（ふくもと けんいち）

現住所：大阪市城東区

出身地：和歌山県

生年月：1965年7月

略 歴：1991年2月 大陽酸素(株) (現大陽日酸) 入社

1999年4月 情報システム部業務課

2008年11月 管理本部 会計ソリューション部 IT統制推進課

2012年12月 コーセイ株式会社 (現大陽日酸アソシエイツ(株)) 出向

2015年3月 JIMGA 近畿地域本部 事務局長

趣 味：30歳位に地元のソフトボールチームに入ったのがキッカケで、ほぼ毎日曜日にはどこかのグラウンドを走り回っています。年々歳を重ねる度に体力の衰えを感じていますが、頑張っております。

抱 負：今まで経験したことのない業務を担当しますが、一步一步着実に進めていき、様々な機会を通じて会員様の信頼を積み上げて行く所存です。

水素スタンドプロジェクト事務局員紹介



名 前：相馬 一夫（そうま かずお）

現住所：東京都西東京市

出身地：東京都

生年月：1959年11月

略 歴：1984年4月 岩谷産業(株)入社

1997年4月 米国岩谷会社 営業担当課長

2008年10月 電子・機械本部 通信機器部長

2011年4月 技術部 シニアマネージャー(技術企画担当・東京)

2015年4月 JIMGA 水素スタンドプロジェクト リーダー

趣 味：趣味はゴルフ（草刈りレベル）、サッカー観戦、B級グルメの食べ歩きなどです。

抱 負：はじめまして。岩谷産業より出向して参りました。まだ右も左も分かりませんが、初心に戻り精一杯頑張る所存です。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。